

# 農業



令和4年7月号  
会誌 No. 1692

## 目次

### 巻頭言

地域農業リーダーの存在……………雨宮 宏司 3

### 論 壇

これからのアグリビジネス学……………内山 智裕 4

### 食用タンパク質研究会

第4回食用タンパク質研究会…………… 6

第5回食用タンパク質研究会……………佐藤佳寿子 6

代替タンパク質の技術開発動向と未来一次世代タンパク質の姿とは—  
質疑応答・討論…………… 16

### 地域セミナー 秋田

「稲作の底力」を見つめ直す…………… 21

基調講演「秋田農業における米の価値」……………藤岡 茂憲 21

パネルディスカッション…………… 28

### 食を楽しむ

農園が舞台のファームウェディング。等身大のおふたり， ……水川 瞳 36  
そして農家さんの思いに寄り添いたい

### 研究の最前線

ブロッコリー増収のための仕立て技術の開発……………高橋 徳 37

—2花蕾どりにかけた研究の軌跡—

## 農業・農村の現場から

ウメ産地を未来につなげる伐採班の活動……………山本宗一郎 47

## 世界の農業は今

ウクライナ危機が世界・日本の農業に及ぼす影響……………内田多喜生 51

## 私の経営と志

魅力あるカッコいい農業……………富田 純大 57  
—滋賀県高島市朽木でおいしい米づくり—

## 農家の気持ち

国土を守る「ランドスケープ農業」という……………大津 愛梨 59  
古くて新しいスタイル

## 統計情報

令和4年集落営農実態調査結果（令和4年2月1日現在）…………… 60

## 農政情報

…………… 61  
大日本農会だより…………… 62

編集部から…………… 62

会誌「農業」に関するアンケート

### 表紙写真説明

### 京都「万願寺甘とう」の検品作業（京都府舞鶴市）

京野菜は、京都の長い歴史と伝統に生まれ、豊かな食文化を支えてきました。その京野菜を代表する「万願寺甘とう」は、JA 京都にのくに管内で、年間生産量約550 t、約4億円を売り上げ、京都府中丹地域の地域農業を支える主要な園芸品目です。

京の伝統野菜「万願寺甘とう」は、京都府舞鶴市の万願寺地区で、大正時代に誕生し、現在では、舞鶴市及び隣接する綾部市と福知山市の一部に限り栽培されています。産地全体で種子の管理を徹底し、管内2カ所にある検品場で厳しい品質管理と出荷基準にクリアしたもののだけが、「万願寺甘とう」として、全国に出荷されています。

また、環境にやさしい安心安全な栽培に取り組み、1989年には「京のブランド産品」第1号として認証され、2017年にはその品質が認められ、京都府で初めて「地理的表示（GI）保護制度」に登録されました。

大型肉厚で、タネが少なく、甘いトウガラシの「万願寺甘とう」は、焼いても、煮ても、揚げてもおいしい万能野菜で、辛いがないので、子供も安心して食べることができます。

（写真および文：京都丹の国農業協同組合営農経済部販売促進課 高見典俊）